

(1) ぐんぐん伸びる NICU 卒業生の内分泌管理

[講師] 島 彦仁（東北大学大学院医学系研究科・小児病態学分野 助教）

[要旨]

SGA 出生は低身長リスクであり、SGA 出生児全体の平均成人身長は-1SD 程度と見積もられ、約 14%は成人期にも-2SD 以下であると報告されています。SGA 出生児のうち、約 90%は 3 歳までに catch-up を認めますが、十分な catch-up が得られない場合には、3 歳以降成長ホルモン治療の適応です。また、SGA 出生児では思春期が早期に開始するが多いことが知られていますが、低身長での思春期発来は骨成熟が早期に完了することにつながり成人身長低下の原因となります。SGA 出生児が経験しやすいこれら2つの治療可能な原因について概説するとともに、具体的な治療方法を症例とともにご提示いたします。

[略歴]

2009 年 4 月-2013 年 4 月	岩手県立中央病院 初期・後期研修医
2013 年 4 月-2013 年 9 月	宮城県立こども病院 後期研修医
2013 年 10 月-2014 年 3 月	東北大学病院 後期研修医
2014 年 4 月-2015 年 3 月	いわき市立総合磐城共立病院
2015 年 4 月-2017 年 9 月	国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部 大学院生
2018 年 10 月-2019 年 3 月	東北大学病院 小児科
2019 年 4 月-2021 年 3 月	仙台市立病院 小児科
2021 年 4 月-現在	東北大学病院 小児科

(2) 超早産の産科学的特徴とその予防戦略について

[講師] 米田 哲（富山大学学術研究部医学系・産科婦人科学教室 准教授）

[要旨]

自然早産は、早期早産であるほど重度の組織学的絨毛膜羊膜炎、高度子宮内炎症が存在し、特に、ウレアプラズマ/マイコプラズマと一般細菌の重複感染は、高度炎症の原因であることが富山大学の臨床データから判明している。当科では、子宮収縮抑制可能な切迫早産に対して羊水検査を実施し（子宮収縮が抑制できない場合は、施行していない）、適切な抗菌薬および黄体ホルモン治療を行うことで、約 4 週間の妊娠期間の延長効果を認めている。

しかしながら、高度の子宮内炎症を伴いやすい妊娠 26 週以下の超早産では、これらの重複感染が、約 6 割に存在し、治療抵抗性が極めて強く、産科学的介入には限界がある。また、子宮内重複感染は、超早産のリスクのみに留まらず、新生児慢性肺疾患のリスク因子となり得ることも判明した。

子宮収縮、胎胞形成、性器出血、破水は、自然早産に至る予兆であるが、これら臨床症状の出現は、子宮内環境の悪化を意味し、特に早期であるほど、子宮内環境が大きく破綻している可能性が高いと考えられる。すなわち、妊娠初期からの自然早産（特に超早産）予防対策が必須であると言える。現時点で明確な自然早産予防戦略はないが、酪酸菌含有プロバイオティクス (PPP trial: jRCTs041210014、研究代表医師: 米田 哲)、ラクトフェリン、予防的頸管縫縮術、脱落膜ポリープの初期対応などについては、超早産減少という大きな目標への鍵を握っている。

[略歴]

平成 8 年	富山医科薬科大学(現:富山大学)医学部医学科卒業 同産科婦人科学教室入局
平成 10 年	愛育病院産婦人科(東京都):1 年間
平成 12 年	鹿児島市立病院 NICU:1 年間
令和 2 年	富山大学産科婦人科学講座准教授

平成 20 年	医学博士(富医薬第 24 号)
平成 24 年	周産期(母体・胎児)専門医
平成 29 年	周産期(母体・胎児)指導医

[趣味]

釣りと料理で晩酌

(3) 乳児期のミルクアレルギー ～即時型症状と新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症～

[講師] 堀野 智史（宮城県立こども病院アレルギー科 部長）

[要旨]

乳児期に発症するミルクアレルギーは、IgE 依存性の即時型症状と非 IgE 依存性の新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症に大別される。即時型症状は、蕁麻疹などの皮膚症状、呼吸器症状、消化器症状、循環器症状、さらにはそれらが複合するアナフィラキシーなど、多彩かつ重篤な症状を引き起こす可能性がある。一方、新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症は嘔吐、血便、体重増加不良など、主に消化器系に限定した症状を特徴とする。これらはいずれも時に重篤化し、早期の診断と適切な対応が求められる。本講演では、これらの基本的な知識を整理するとともに、近年注目されているトピックスについても言及したい。

[略歴]

2004 年	東北大学 医学部 卒業
2004 - 2007	山形県立中央病院 研修医
2007 - 2008	東北大学病院 小児科 医員
2008 - 2009	宮城県立こども病院 血液腫瘍科 医師
2009 - 2013	東北大学大学院医学系研究科免疫学分野博士課程
2013 - 2015	みやぎ県南中核病院 小児科 科長
2015 - 2017	宮城県立こども病院 アレルギー科 医長
2017 - 2018	大崎市民病院 小児科 科長
2018 - 現在	宮城県立こども病院 アレルギー科 部長

[免許・資格]

医学博士：東北大学
日本小児科学会：専門医、指導医
日本アレルギー学会：専門医、指導医

[学会・研究会：役職]

日本アレルギー学会(代議員)
日本小児アレルギー学会(理事、代議員)(アトピー性皮膚炎委員会委員、規約委員会委員、Junior 育成委員会委員、移行期支援ワーキンググループ委員、食物アレルギー診療ガイドライン 2021 執筆協力者、小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023 執筆協力者)
東北小児喘息アレルギー研究会(幹事)
宮城県小児保健協会(理事)

(4) NICU のモニター心電図の心拍変動解析で何が解り、何の役に立つのか？

[講師] 高橋 健（順天堂大学浦安病院小児科 教授）

[略歴]

平成 6 年 3 月	信州大学医学部卒業
平成 6 年 5 月	順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科
平成 7 年 1 月	順天堂大学医学部小児科学講座 専攻生
平成 7 年 1 月	埼玉県越谷市立病院小児科
平成 8 年 1 月	順天堂大学医学部小児科学講座 専攻生
平成 12 年 3 月	順天堂大学にて医学博士の学位授与
平成 13 年 10 月	日本小児科学会専門医(認定番号 21965)
平成 14 年 4 月	順天堂大学医学部附属浦安病院小児科学講座 専攻生
平成 16 年 9 月	カナダ トロント小児病院循環器部門留学(Clinical research fellow)～17 年 8 月
平成 17 年 9 月	カナダ アルバータ大学小児科循環器部門(Clinical research fellow)～19 年 12 月
平成 17 年 12 月	日本小児循環器学会専門医 (認定番号 08390)
平成 20 年 1 月	順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科学講座 助教
平成 25 年 1 月	順天堂大学医学部小児科学講座 准教授
平成 30 年 11 月	順天堂大学医学部小児科学講座 前任准教授
令和 3 年 10 月	順天堂大学医学部附属浦安病院小児科 前任准教授
令和 5 年 7 月	順天堂大学医学部附属浦安病院小児科 教授

[役職・院外]

日本小児循環器学会評議員
日本小児循環器学会雑誌和文誌編集委員長
日本小児循環器学会 総務担当
日本小児循環血行動態研究会 幹事
日本小児血行動態研究会学術委員
日本心エコー図学会評議員
日本心エコー図学会専門医研修プログラム作成委員会
日本超音波学会試験作成委員
心エコーウインターセミナー世話人
血流会世話人
心筋会世話人
右心系と成人先天性心疾患の血行動態に関する研究会世話人
日本小児科学会代議員
千葉県小児保健協会 理事
日本小児科学会千葉地方会 幹事

東京小児がん研究グループ Cardiology wing メンバー

[今までの各受賞歴]

平成 24 年 11 月 第 32 回日本小児循環動態研究会 会長特別賞

平成 25 年 10 月 第 33 回日本小児循環動態研究会 最優秀演題賞

[所属学会]

日本小児科学会

日本小児科学会千葉地方会

日本小児科医会

日本小児循環器学会

日本循環器学会

日本成人先天性心疾患学会

日本心エコー図学会

日本超音波医学会